

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 石井 陽子 |
| 授与した学位 | 博士 |
| 専攻分野の名称 | 看護学 |
| 学位授与番号 | 博甲第133号 |
| 学位授与の日付 | 令和2年3月24日 |
| 学位論文の題目 | 児童相談所保健師の専門的能力に関する基礎的研究 |
| 学位審査委員会 | 主査 二宮 一枝 副査 高橋 徹 副査 荻野 哲也 副査 中村 光 副査 川上 貴代 |

学位論文内容の要旨

本学位論文は、児童相談所（以下、児相）保健師の現任教育や基礎教育、そして児相を有する自治体における保健師の適正配置に資することをねらいとして、児相保健師の専門的能力を明らかにすることを目的とした。

目的達成のため、2つの研究課題、すなわち、自治体保健師の標準的なキャリアラダー（以下、キャリアラダー）に示される6つの専門的能力において、保健分野と福祉分野それぞれの配置を司る側が児相保健師として重視する専門的能力を明らかにする（研究課題1）、児相における保健師活動の特徴から児相保健師に求められる対人支援能力を明らかにする（研究課題2）を設定し取り組んだ。なお、研究課題1では、キャリアラダーに示される6つの専門的能力のうち児相保健師に最も重視される専門的能力は対人支援能力であるという仮説を立て検証した。キャリアラダーを基軸に据えたのは、国が示す標準的な能力の指標であり、自治体保健師の体系的な人材育成への活用が推進されているためである。

第1章では、児童虐待防止対策や行政保健師の専門的能力に関する社会的背景、研究動向を整理し課題を明らかにした。具体的には、地域において児童虐待予防等を担う行政保健師の専門的能力の向上が課題となる中、児相の体制強化において保健師の配置増員が示された。しかしながら、福祉分野である児相に勤務する保健師に関する研究の蓄積は散見されるものの、専門的能力は明らかではないことを指摘した。

第2章では、研究課題1を明らかにするため、児相を有する69自治体の統括保健師と児相所管部門責任者（以下、児相所管者）を対象にデルファイ調査を実施した。結果、キャリアラダーに示される6つの専門的能力のうち、統括保健師や児相所管者が児相保健師に最も重視していたのは対人支援能力であり、キャリアレベルはA-2からA-5レベルに及ぶことが明らかとなった。このことから、配置を司る側が児相保健師に重視する対人支援能力は、

基本的な対応能力にとどまらず複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に判断し、主体的に考え他部署等と連携・調整しながら様々な支援を駆使できる高度な対人支援能力であることが示唆された。この結果、研究課題 1 における仮説も検証することができた。

さらに、統括保健師と児相所管者の視点の違いを明らかにできた。この違いは、統括保健師は配属場所にかかわらず保健師として備えるべき能力を重視し、児相所管者は児相全体の職員配置状況や保健師の職位等を勘案して専門的能力を判断しているためと推察された。このことから児相への保健師配置に関しては、福祉分野と保健分野双方の配置を担当する者が協議を重ね、共通認識を深めることが重要という示唆も得ることができた。配置を司る側が最も重視する対人支援能力について、児相における保健師活動に照らして具体的に明らかにすることが課題となり、研究課題 2 につながった。

第 3 章では研究課題 2 を明らかにするため、全国の児相を有する自治体のうち、児相に 10 年以上保健師を配属する 4 自治体の児相勤務を経験した保健師 7 名を対象に、インタビュー調査を実施し、質的・量的に分析した。結果、児相における保健師の対人支援活動の特徴は、「保健師を意識して児相で活動する」、「個と地域をみて支援する」、「児相職員としてチームで活動する」の 3 つが導き出され、「保健師であることを意識して」活動することは他の福祉分野同様、児相に配属される保健師の特徴であり重要なことが示唆された。また、児相保健師の対人支援能力は、アセスメント力、支援力、調整力を中心に、保健師の基本的能力である倫理観・責任感、支援を展開するためのコミュニケーションや協調性・柔軟性、積極的に活動する独創性・積極性・発信力、アイデンティティが基盤であることが明らかとなり、なかでもアイデンティティは、児相において「保健師であることを意識して」活動するため最も重要な保健師の基本的能力と考えられた。

第 4 章は、総括として、以上の結果を踏まえ本学位論文のまとめと看護実践への示唆を述べた。本学位論文の成果は、児相保健師の専門的能力に関する基礎的研究として、キャリアラダーを基軸として児相保健師に最も重要な専門的能力は対人支援能力であり、基本的な対応から高度な対応まで幅広い対応レベルが求められること、および児相における保健師活動の特徴に照らして児相保健師の対人支援能力を具体的に明らかにしたことである。

この成果から得た看護実践への示唆は、保健師の現任教育では児相配属の可能性を視野に、早期から対人支援活動を経験できる部署に意図的に保健師を配属しフォローアップを行う等、組織全体で保健師を育成することが重要であり、児相保健師の「個と地域をみて支援する」活動は、家族再構築等の児相における支援機能の強化につながる可能性を考察したことである。

主業績

| | |
|------|---|
| No.1 | |
| 論文題目 | 児童相談所における保健師の対人支援活動の特徴と対人支援能力 —計量テキスト分析を用いて— |
| 著者名 | 石井陽子、二宮一枝、富田早苗 |
| 発表誌名 | 日本公衆衛生看護学会誌、第8巻第3号、153-162頁、2019. |

副業績

| | |
|------|--|
| No.1 | |
| 論文題目 | 統括保健師が児童相談所保健師に求める専門的能力と重視する事柄 —デルファイ法と自由記述からの検討— |
| 著者名 | 石井陽子、二宮一枝 |
| 発表誌名 | 岡山県立大学保健福祉学部紀要、第25巻第1号、9-17頁、2018. |

関連業績

| | |
|------|---|
| No.1 | |
| 論文題目 | 児童相談所保健師の活動と役割に関する文献的考察 |
| 著者名 | 石井陽子、二宮一枝 |
| 発表誌名 | 川崎医療福祉学会誌、第27巻第2号、505-512頁、2018. |
| No.2 | |
| 論文題目 | 児童相談所保健師に必要な専門的能力 —児童相談所所管部門と保健師統括部門の比較— |
| 著者名 | 石井陽子、二宮一枝 |
| 発表誌名 | 川崎医療福祉学会誌、第27巻第2号、425-432頁、2018. |

論文審査結果の要旨

本論文は、児童相談所（以下、児相）保健師の現任教育や基礎教育そして児相を有する自治体における保健師の適正配置に資することをねらいとして、児相保健師の専門的能力を明らかにすることを目的とした研究である。目的達成のため設定した2つの研究課題とその成果は次のとおりである。

課題1では、児相を有する69自治体の統括保健師と児相所管部門責任者（以下、児相所管者）各69名を対象に、行政保健師の現任教育で活用されているキャリアラダーを援用したデルファイ調査結果から、児相保健師として重視する専門的能力は対人支援能力であり、そのキャリアレベルは、基本的な対応能力にとどまらず高度な対人支援能力であることを明らかにした。同時に、地域支援能力などについては両者の視点の相違がみられたことから、共通認識が重要であり、実際の児相保健師の活動から専門的能力を明らかにする必要性を見出した。

課題2では、児相における保健師活動の特徴から児相保健師に求められる対人支援能力を明らかにするため、全国の児相を有する自治体のうち児相に10年以上保健師を配属する4自治体の児相経験保健師7名を対象にインタビュー調査を実施し、質的・量的に分析した。結果、児相保健師の対人支援活動の3つの特徴として、「保健師を意識して児相で活動する」、「個と地域をみて支援する」、「児相職員としてチームで活動する」を析出した。また、児相保健師の対人支援能力は、アセスメント力、支援力、調整力などから成る保健師の基本的能力が基盤であり、なかでもアイデンティティは、児相において「保健師であることを意識して」活動するため最も重要な保健師の基本的能力であるとの示唆が得られた。

以上、本論文で得られた成果は、児相保健師の質と量の確保において、新しい知見を提供するものであり、看護学分野の研究と実践に対して有意義なものと判断された。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（看護学）の学位論文として価値あるものと認める。